

今日のトピック インド株式市場は調整（2019年5月前半） 米国の対中追加関税引き上げで9日続落

【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	5月13日	1週間	1カ月	6カ月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.55	▲2.9	▲4.3	▲1.0	▲4.6
ルピー/米ドル (ルピー)	70.52	1.6	1.9	▲3.0	4.7
金利 (%)					
政策金利	6.00	0.00	0.00	▲0.50	0.00
10年国債利回り	7.39	▲0.00	▲0.01	▲0.37	▲0.34
株式指数					
SENSEX (ポイント)	37,090	▲3.9	▲4.3	5.5	4.4

(注) データは2019年5月13日基準。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【インドの株式、通貨】 (ポイント) (ルピー/円)



ポイント1 株式市場は調整

米国の対中追加関税引き上げで世界的な株安に

- インド株式市場は、4月まで堅調な展開が続いていましたが、5月に入ると、代表的な株式指数のSENSEXが9営業日連続で下落して約2カ月ぶりの安値水準となるなど、調整しています。総選挙での与党勝利の観測などから4月に過去最高値を付け、高値警戒感が出ていたところに、トランプ米大統領が対中追加関税引き上げを表明したことや、5月9～10日に行われた米中通商協議が不調に終わり、米国が実際に2,000億ドル分の中国製品への追加関税を引き上げたことを受けて、米中貿易摩擦の激化懸念から世界的な株安となったことが背景です。

ポイント2 総選挙の投票は残すところ1日

- インドで4月から行われている総選挙は5月12日、首都ニューデリーなどで投票が行われ、合計7日間の投票日のうち残すところ5月19日の1日だけとなりました。開票は5月23日に一斉に行われます。今回の選挙は、経済改革を推進しているモディ首相率いる与党「インド人民党」が勝利して、モディ政権が継続するかどうか焦点で、世論調査の予想通り、これが実現すれば市場は好感しそうです。

今後の展開 第二次モディ政権の発足が決まれば市場の安心材料に

- 米中貿易摩擦は先行きが見通しにくく、当面は相場の重石となるものの、株式市場は既に約2カ月ぶりの安値水準に調整しており、世界的に景気減速懸念が高まるなか、市場では追加的な金融緩和期待が根強いことが、今後市場を支えそうです。注目される5月23日開票予定の総選挙結果で、第二次モディ政権の発足が確定すれば市場の安心材料となることが期待されます。

ここもチェック! 2019年5月 9日 アジア・マーケット・マンスリー（2019年5月）
2019年4月 18日 インド株式市場は最高値を再び更新（2019年4月後半）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。